



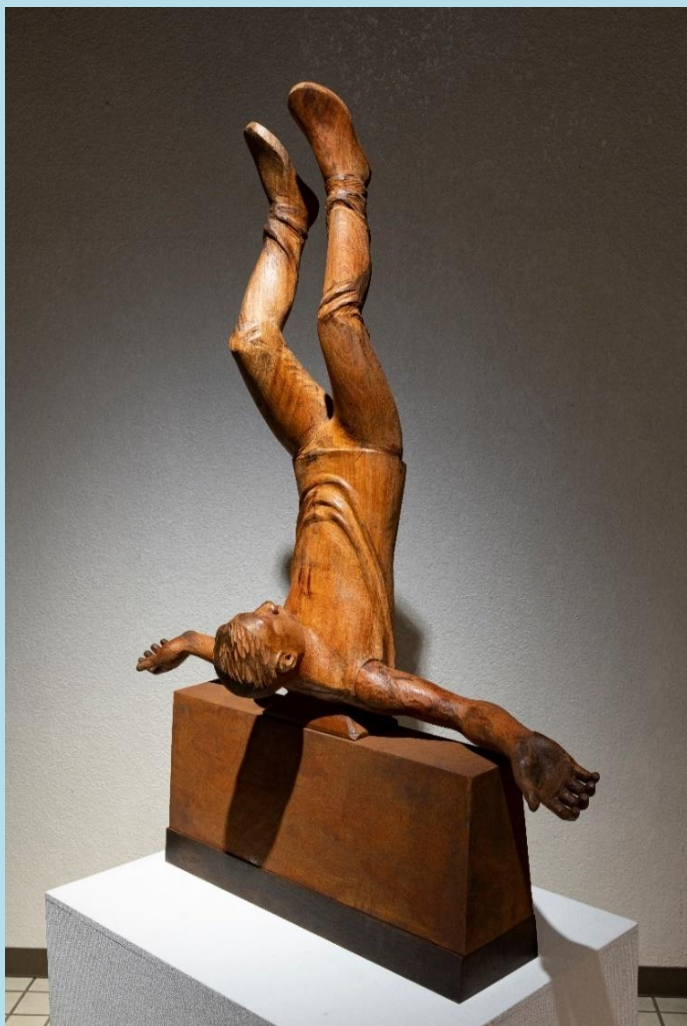
いずみ

No.84

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 54



(撮影 前澤 良彰)

《HORIZON》

岩永 啓司

(2 ページに「作者の言葉」)

「視線のはなし展」出展に向けて制作した本作は、蔵の梁^{はり}として使われた檜^{けやき}材を用いた。木目の詰まった貴重な赤身の材だけに、長く手が出せずにきたものだ。近年は木の円筒という既定の制約から、いかに自由な造形（抽象形態）を引き出すかに腐心してきたが、本作では重い屋根から材が受けた、あるいは私が材から感じる「重圧からの解放」を久々の人体で形象化した。（1982年、長野県生まれ。道教育大旭川校勤務 国展会員）

タイトル：HORIZON

制作年：2022 年

素 材：けやき、くるみ、鉄

サイズ：H130×W90×D30cm

設置場所：作者蔵

「日常／聖地」

学芸員 梅村 尚幸

札幌芸術の森美術館で4年間学芸員として勤めた後、東京にある一般財団法人地域創造に2年間派遣され、この春に彫刻美術館に着任しました。

先日、芸森時代に一緒に仕事をしていた某テレビ局員に帰札のご挨拶をしたところ、「本郷新さんの作品は、好きか嫌いかでいうと、好きになれない。部屋に置きたいと思わないから…」と言われました。私は「鋭いですね」と返しました。なぜなら本郷新は、誰かの邸宅に飾られるような趣味的な作品の制作を意図的に避けていたのですから。

崇高な理想を体現した本郷新の作品は、彫刻を志す人にとっての古典となりえます。そのため、彫刻美術館は全国の彫刻ファンの聖地になるポテンシャルがあるとも感じています。

一方で、美術館は地域の人々の日常に寄り添う必要があります。東京時代は全国各地の美術館や劇場を訪れ、職員の話聞く機会がありました。公立文化施設が中心になって、地域の課題に本気で向き合っている様子を目の当たりにし、文化施設はもはや単なる「ホンモノ」（本物とは何かという話はおいとして）を見せるだけの場所ではなく、人々の生活の拠り所にもなりつつあるという認識が深まりました。

誰かの日常と聖地が両立し得るのかということ、両立すると思います。巡礼者たちには「ホンモノ」の確認作業だけでなく、この場所での日常にも触れてもらい、そこで新たな交流が生まれればこの上ないですね。



アプリで写真をパチリ！

ゆかりの芸術作品 412 点がお出迎え

「アートナビ サッポロ」開発者 棟方 悦子
(株式会社「参栄」代表取締役社長)

草木がいいエネルギーを発散して、イキイキと輝く季節となりました。

例えば、大通公園は自然の中の大美術館。そこに凛として佇む屋外彫刻の数々、小鳥のさえずりやそよ吹く緑の風に誘われて、美の世界へ。ある時、芸術作品に触れて、励ましや勇氣、希望、夢をさりげなく語ってくれて琴線に触れた日のことを思い出します。

「アートナビ サッポロ」のアプリを開いて、カメラでパチリ。起動が始まったらそこから作家たちの声に耳を傾けて下さい。このナビには、北海道にゆかりの作品が至る所に点在し、あちこちから作家たちの沸きあがる情熱が響き合い、熱いメッセージが10カ国語で解説されています。ガイドブックや検索しても見つけられずに、イライラ。手間ひまが一瞬に解決してしまう、時代の要請に応えるべく満を持して登場したのが、「アートナビ サッポロ」といっても過言ではないでしょう。

実は、私がヘルシンキで見た立派な屋外彫刻の数々は、ガイドブックに一切載っていませんでした。何度もヘルシンキ駅のすぐそばにある郵便局の前を素通りして、行ったり来たり…

…。そんな苦い苦労の糧がすべて機能して同アプリに反映しております。

最初は、海外からの観光客を対象に喜んでもらいたいという思いで、札幌の芸術・文化の価値を少しでもおすそ分けができて魅力に触れてもらえれば、という気持ちで開発が始まりました。その芸術作品の数は現在、大通公園エリア 90 点をはじめ真駒内エリア 54 点、円山エリア 41 点など、札幌市内で 412 点に及びます。

ところが、アプリが完成して、世の中に公表してみると市民、道民がアプリを通して、つかの間のショート・トリップを楽しむツールとして、ご活用していただいているのです。

数々の芸術作品に魅了されつつ、現在地や目的地への誘導、ホテルやレストラン、お土産店のアクセスと、便利さも手伝って利用者は拡大中です。

朝な夕な、そして四季折々に表情を変える作品群。まるで、そこにいるように一緒に寄り添ってくれる対話のひと時に心深く、静かに胸躍らせる時間を是非とも共有したいものです。

彫刻 60 年 鈴木吾郎展「悠久を舞う」(2023 年 4 月 29 日～8 月 27 日)

紙上採録

作家が語る「野外彫刻制作こぼれ話」

本郷新記念札幌彫刻美術館で開催中の彫刻家・鈴木吾郎展「悠久を舞う」で5月13日、作家による講話シリーズ「野外彫刻制作こぼれ話」が行われた。トークの一部を採録した。

(文、構成 大内 和)

＜作者略歴＞ 1939 年、芦別市生まれ。札幌西高から道学芸大（現道教育大）札幌分校卒。恵庭恵北中、栗山高、小樽潮陵高、札幌西高などで美術を教えた。

◇《希望に燃えて》長沼町・長沼中央小学校



初めて作ったブロンズの作品。鋳造費の見積もりを取ったら最高が32万円、最低が8万円。ずいぶん差があるものと驚き、8万円をお願いした。以来、この鋳造所と付き合っている。タイムカプセルが埋まっていて、いつ開けるのか楽しみ。

◇《希望と躍進の像》滝川市 JR 駅前



当時の市長から頼まれて作った作品。市の計画ではコンクリート製だったが、ステンレス製にした。初めて女性をモデルに使った作品で、思いがけず妻ともめ、何とか説得して出来上がった。

◇《屯田時計塔》北見市一番街



北見の歩行者天国にある時計塔。時計の下にある屯田兵の像が時間になると回転する仕掛け。栗山から小樽へ引っ越ししたばかりで、1 ヶ月で歩行者天国のオープンに合わせた。当日は豪雨で、列車が使えず、車で日高まわりで除幕式に駆け付けた。

◇《ひびき》小樽市運河外苑



小樽ライオンズクラブからの依頼。観光客が椅子に腰かけて背もたれの小鳥にぶつかり、「鳥につつかれた。口ばしを切れ」なんて電話

が来たことも。笛を吹いている男の像の笛が取れ、「一週間後に宮様がお見えになるから直せ」と言われ、修理中に車列が到着し、大慌てしたことも印象深い。

◇《そり遊び》滝川市・華月館



テレビドラマ「ちょっちゃん」がはやって、観光客が大勢来るようになった。これも滝川市からの注文。除幕式の日も決まっていた、型を取って、鋳造に出し、送り返して、設置など、1 週間で作った。ちょっちゃんの足首は家内がモデル。

◇《子どもと子うま》浦河町総合文化センター



浦河町から頼まれて作った。子どもと子馬が互いに好奇心を持って見つめ合っているところ。後に浦河町の姉妹町、熊本県河浦町（現天草市）にも設置。

◇《十月の女》小樽市市立図書館



初めて佐藤忠良先生に見てもらった作品。プラスチックで作って持って行ったら首の構造が違くと指摘され、首の作り方を教わった。先生とは終生のお付き合いで、「汗をかけ」「恥をかけ」「手紙を書け」という「三かけ運動」なども教わりました。

(写真は札幌彫刻美術館「北海道デジタル彫刻美術館」から)

本田明二ギャラリー 故郷月形町にオープン 月形樺戸博物館を改修 「スタルヒン像」石膏原型など 125 点收藏

北の大地に根を下ろし、生涯、道内の彫刻界をリードした本田明二さんのギャラリーが生まれ故郷である空知管内月形町の月形樺戸博物館の中に完成した。1989年に亡くなった本田さんの命日に合わせて4月22日にオープンした。オープニングには友の会から橋本信夫名誉会長、高橋大作会長ら6人が参加した。当日の印象を会員の久保田彩荷さん、小笠原悦子さんに綴ってもらった。



本田さんは1919年、月形町生まれ。札幌二中(現札幌西高)卒。上京して彫刻を学んだあと、戦後は北の大地に根を下ろし、創作に向き合い続け、《けものを背負う男》《栄光》《スタルヒン像》など多くの作品を残した。没後オープンした札幌・中央区の本田明二ギャラリーが2020年に閉館し、親族から木彫やブロンズなどの彫刻75点、レリーフとデッサンなど50点、合わせて125点が寄贈され、ギャラリー開館となった。

郷土の誇りにスポットライト

小笠原悦子

4月22日、作家の命日。生まれ故郷の月形町に「本田明二ギャラリー」がオープンしました。

代表作の《スタルヒン像》、《けものを背負う男》《仔牛》などの像、さらにデッサン画などが静かな室内に並んでいます。それぞれがスポットライトを浴びて、まさに郷土の誇りを感じさせる展示となっていました。

私は絵画や彫刻を鑑賞する時、いつも「家に置きたい作品はどれか」と思って観ています。今回のイチオシは《仔馬》です。細い脚で立ち上がった健気な姿が印象的でした。

作品を寄贈した長女の近藤泉さんは「ここに来ればいつでも父の作品に合える。第二の故郷になりました」と語りました。本田明二さんは、二歳までしか月形にいなかったそうですが、生まれ故郷はやはり特別な場所なのですね。

ギャラリーは月形樺戸博物館の二階にあります。作品鑑賞の後、博物館にも回ってみました。ここでは、樺戸集治監の歴史をわかりやすく紹介しています。これからの観光シーズン、おすすめのスポットがまたひとつ増えました。

誇らしげな偉業の数々

久保田彩荷

町に縁の深い彫刻家・本田明二さんの作品を後世に残すため町を挙げて記念館建設に力を入れたと聞きました。記念館の2階に上がると白、ピンク、エンジのレントローズの花々が迎えてくれました。ギャラリーの開館式では町長や本田さんの身内の方々の祝辞があり、友の会の橋本信夫名誉会長が本田さんと札幌彫刻美術館での出会いの思い出、本田さんの郷里への思いがこのような形で実現したことへの重みを話しました。

テープカットのあと、三々五々に作品を鑑賞。会場にはひととき大きなスタルヒンの全身像や札幌市内でも見られる「馬頭」や「飛ぶ」などの木彫、ブロンズ像がそれぞれの場を得て誇らしげに配置されていました。壁には額縁に収まったスケッチ、素描8枚も飾られ、本田さんの偉業がしのばれました。

樺戸集治監になって140年。樹齢500年のニレの木、古いオンコの姿が歴史を物語っているようでした。

最後は月形小学校の校舎を背に、本田明二の《愛》母子像に送られ、思い出を一つ重ねて月形町を後にしました。

札幌彫刻美術館友の会 2023 年度総会

新年度活動計画など原案通り可決

老朽・危険度の高い野外彫刻の調査に着手



彫刻美術館友の会の2023年度総会が5月20日、札幌エルプラザで開かれ、22年度活動報告、決算監査報告、新年度活動計画案、予算案などを審議、全議案を原案通り可決して閉会した。引き続き行わ

れた講演会では昨年秋、「こうしてできた北の銅像」を出版した小沢信行氏を講師に招き、取材裏話など興味深い話を聞いた。

総会は松原安男さんを議長に選出、22年度活動報告では友の会では初の出版活動となった「ぶらり札幌彫刻めぐり」の刊行、野外彫刻清掃実施状況、本郷新の資料整理など彫刻美術館支援活動の報告があった。決算監査報告では収入1,140,527円に対し、支出549,941円、繰越残高590,586円となったことが報告され、いずれも原案通り承認された。さらに、新年度活動として札幌市内にある146体の老朽・危険度の高い野外彫刻の点検調査を行うこと、「ぶらり札幌」の増刷、野外彫刻清掃計画などすべてが提案通り認められた。また、任期満了となった役員改選では常田益代、永喜多宗雄の2氏が退任し、ほか全員を再任した。

彫刻美術館友の会役員
(2023年4月～2025年3月)

顧問	原子 修 國松明日香
名誉会長	橋本信夫
会長	高橋大作
副会長	大内 和
事務局	奥井登代 猪股岩生 高橋淑子 松原安男 細川房子 岩崎恵美子 押野記代子 井尻哲男 太田雅人 米澤修吾 藤倉まゆみ 小笠原悦子
監査	関堂安司 園部亜佐子

講演 「こうしてできた北の銅像」著者 小沢信行さん自作を語る



小沢信行さんは昨年、道内各地にある銅像を巡り、銅像が何故、そこにあるのか、建立までにどんな苦労があったかなどを取材、「こうしてできた北の銅像」にまとめた。

小沢さんは銅像建設にはさまざまなドラマがあることを知り、銅像を世に送り出した人々の熱い思いを知りたいと思ったと著書の「まえがき」に書いており、スライドを使いながら銅像制作にまつわるエピソードを語った。

最初に取り上げたのが旭川にある「スタルヒン像」(本田明二)。旭川中(現旭川東高)でスタルヒンと同級生で同じ野球部だった西条敏夫が交通事故死したスタルヒンの記念碑を立てたいと野球部 OB などに働きかけて寄付金を募り実現にこぎつけた。北海道の女医第1号、「荻野吟子」像は北海道医師会長を務めた松本剛太郎が医師仲間働きかけて建立した。松本が荻野吟子研究の成果を「北海道医師報」に連載したのを讀んだ当時、札幌医大の医師だった作家・渡辺淳一が小説「花埋み」を書いた。若い時代に石川啄木の本を讀み、心を打たれた本郷新は東京・浅草の等光寺にレリーフを、また、啄木座像を念願だった函館・大森浜海岸に建てた。さらに、釧路にも立像の啄木像を作り、「生涯の悲願として啄木に関する彫刻を三つ成し遂げたい」という思いを達したと話した。

2023年彫刻清掃スタート 中島公園で「母と子の像」など 秋までに 8 回めざす

今年第1回の彫刻清掃活動が5月14日、中島公園で行われた。

好天に恵まれたこの日に彫刻の清掃をしたのは「香りの広場」にある「猫とハーモニカ」「笛を吹く少女」「鶴の舞」「母と子の像」のほか、「木下成太郎像」「バーンスタイン像」の6体。



昨年はコロナ感染症の影響で計画通りの彫刻清掃ができなかっただけに、今年初めての彫刻清掃に参加者は大張り切り。水洗いとブラシで一体一体、丁寧に汚れを洗い落とし、「バーンスタイン像」には蜜蝋ワックス塗布を行って磨き上げた。冬の間の汚れをすっかり落としてもらった彫刻たちも久々にすっきりした表情を浮かべて春の日に輝いていた。

2023年彫刻清掃計画		
5/14	中島公園	猫とハーモニカetc
6/4	道庁	母子像
6/25	大通西10	有島武郎文学碑etc
7/9	円山公園	よいこつよいこetc
8/20	北1西1	希望
9/10	大通西3	泉etc
未定	中島公園	鶴の舞
未定	彫刻美術館	わだつみの声etc

彫刻補修「地産地消」へ期待 彫刻家・伊藤隆弘さん（長沼） 競争入札参加資格取得

老朽化で破損した彫刻の修理、補修を地元業者で行なう、いわば「地産地消」を目指して彫刻家・伊藤隆弘さん＝長沼町旭町北1＝がこのほど札幌市から「競争入札参加資格認定書」を交付された。「Maoi Art Studio」（マオイアートスタジオ）の名で彫刻補修、修理の営業を始める。

伊藤さんは全道展会員でもあり、美唄の「アルテピアッツァ美唄」でブロンズや大理石の修復を一手に引き受けていた。

これまで彫刻はアート作品の性質上、補修修理は専門の本州業者に委託するケースがほとんどだが、道内業者の手で可能になれば経済面でも期待出来ることから、数年前から友の会が「地産地消」の声を上げていた。

ブロンズ彫刻のエキスパート 黒川弘毅氏武蔵野美大退任 ブロンズスタジオで再スタート

札幌・中島公園の「木下成太郎像」の修復などで友の会と長く親交のあった武蔵野美術大の黒川弘毅教授が3月末で退任した。

4月1日付けで友の会に届いた退任挨拶によると、以前から兼務していたブロンズ彫刻の鑄造と保存修復を業務とする有限会社「ブロンズスタジオ」で仕事をするという。

2010年、友の会主催のシンポジウム「北の彫刻」に参加したのをはじめ、15年には「ブロンズ彫刻の保存と大気汚染」の講演、また、16年には木下成太郎像の破損状況調査に内視鏡を用いた検

査を行い、木下像の修復補修の中心として活躍、友の会との縁が深かった。

まちづくり助成金確定 「ぶらり札幌彫刻めぐり」刊行で

「ぶらり札幌彫刻めぐり」刊行で札幌市に対して申請していた「市民まちづくり活動促進助成金」が確定した。

申請額18万円に対して助成金は2分の1補助の9万円となった。3月31日付けで通知があった。

広告代理店（株）参栄 友の会初の団体会員に 「アートナビ サッポロ」へのデータ提供が縁

札幌の街角にある彫刻にスマホを向けるとその場で彫刻の情報を閲覧できる「アートナビ サッポロ」を運営する広告代理店「参栄」（棟方悦子社長）がこのほど友の会の団体会員として登録した。団体会員は第1号。

友の会には会員として正会員、特別会員、団体会員、学生会員の4区分があるが、これまで団体会員は未登録だった。

同社には友の会が保有する彫刻データを「アートナビ サッポロ」に提供している。

2023年友の会バスツアー 旭川経由・東川町文化の旅 8月18日(金)出発予定

<主な見学予定地>

東川町複合交流施設せんとぴゅあ
東川町文化ギャラリー
隈研吾サテライトオフィス「KAGUの家」
道の駅「道草館」
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

事務局日誌▼2023年3月8日＝北海道デジタルミュージアム参加登録で道庁訪問▼9日＝3月定例役員会(かでの2・7)新年度彫刻清掃方針、総会議案検討ほか▼4月13日＝4月定例役員会(エルプラザ)会報印刷費値上げ、バスツアー計画、総会準備▼22日＝本田明二ギャラリーオープンで会長ら参加(月形町)▼5月11日＝5月定例役員会(エルプラザ)メディアマジックと情報交換、老朽野外彫刻再調査計画

編集後記▼本号に名前が載った本田明二さん、鈴木吾郎さんは共に旧制札幌二中、現札幌西高の同窓生である。二中、西高の同窓会を「輔仁会」という。その輔仁会発行の「蒼穹の庭札幌西高物語」(2000年刊)に同窓生の在校時代の活躍を紹介したコラム「朋の群れ」がある▼その「美術・工芸」分野の「彫刻」では本郷新を筆頭に山内壮夫、佐藤忠良、本田明二、鈴木吾郎、國松明日香、永野光一などおなじみの名前が並ぶ。今春まで芸術の森美術館の館長だった佐藤友哉さんも西高卒だ。二中から続いた西高の芸術分野での活躍が伺える。

(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.84

2023年7月1日発行

発行人 高橋 大作

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025)

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」84号 目次

自作自選54	《HORIZON》	岩永 啓司	表紙
宮の森の四季54	「日常／聖地」	梅村 尚幸	2
風見鶏「アプリで写真をパチリ」		棟方 悦子	3
リポート「鈴木吾郎展 作家が語る制作こぼれ話」			4
リポート「本田明二ギャラリーオープン」		小笠原悦子／久保田彩荷	5
友の会ニュース			6-7
2023年度総会／講演会：小沢信行さん／彫刻清掃スタート／伊藤隆弘さん競争入札資格取得／黒川弘毅氏退任／札幌市助成金確定／友の会団体会員1号／バスツアー8月予定			
事務局日誌／編集後記／目次／美術館行事予定ほか			8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本 館

■鈴木吾郎展 悠久を舞う 開催中～ 8月27日

柔らかに屈曲した姿態、交差する腕や脚、端麗に伸びる指先など繊細で軽やかな女性像をテラコッタ(焼成粘土)によって表現し続けてきた鈴木吾郎の作歴60年記念展。およそ50点を展示する。

■彫ってない彫刻 9月16日～12月17日

字義に従えば「彫刻」とは、石や木など硬い素材を彫り刻むものであるが、広義には盛ったり、貼ったり、付けたりして造形される立体表現も含まれる。造形物によって支配された空間そのものを指して彫刻と言うこともあり、昨今では立体視されるなら、映像作品さえも含まれる。本展では意外性の高い技法や素材による立体作品を通して、彫刻芸術についての考察を深め、その広がりゆく可能性と今後の展開をも探る。

記念館

■コレクション展「石と木」 開催中～2024年5月26日

札幌・大通公園の《泉》の像や戦没学生記念碑《わだつみのこえ》など塑像作品に代表作が多い本郷新だが、石造や木彫など不可逆性の要素が色濃いカーヴィング作品も手掛けている。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<https://sapporo-chokoku.jp>